



奈良県農業協同組合
経営管理委員会会長
中出 篤伸

農業の発展に取り組み、食卓へ安心・安全を届ける

農業は古来より人々の暮らしを支え、命をつなぐ大切な役割を担ってきた。農の精神はこれからも変わることなく、次代の担い手へ確実に継承しなければならない。それは私たちJAならけんの大きな使命である。

JAならけんは「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」として、組合員の皆さんと地域の声に応えながら、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする創造的自己改革の実践に全力で取り組んできた。

今後はさらに、時代に合った組織でありつづけるために、地球的視野に立ち、持続可能な農業や経営基盤の強化などの課題に対し「不断の自己改革」を進め、社会的役割を誠実に果たしていく思いである。

JAならけんは、これからの環境変化、社会的ニーズやSDGs(持続可能な開発目標)を踏まえ、引き続き国・県・市を進めるとともに農業者の支援および農業の発展に向け取り組み、これからも皆さんの食卓に安心・安全を届ける「なくてはならないJAならけん」を役職員一丸となって目指していく。



天理大学
学長
永尾 教昭

互いを想いやる利他の感性を忘れずに

皆さんは将来になりたい自分を想像し、日々歩んでいると思う。現在の社会環境下では、今までとは異なっているが、これからの将来もコロナ禍以前の日常や有り様とは異なるだろう。

毎日学校に通い、授業を受け、友人や先生と語らい、課外活動に汗を流した日々は、オンライン授業となり、クラブ活動も中止になった。進路を考える大学のオープンキャンパスや会社訪問もオンラインでの実施。対面でのコミュニケーションが難しく、SNSでのつながりだけでは物足りない。先行きが想像できない中で不安と歎かわさを抱えながら、「つながる大切さ」を再確認できた。

近年、災害で特定の地域が困難に直面したとき、他者を想い、助ける「利他的な感性」の重要性が認識されてきた。コロナ禍においても、最も必要なことは互いを想いやる気持ちだと思う。

皆さんが社会の最前線で活躍する2030年、今以上に多くの人が協働し社会を動かしているだろうが、互いを想いやる「利他的な感性」を忘れずにいてほしい。



株式会社新英
天然湧出温泉ゆららの湯
チーフマネージャー
曾我 未美

地域の皆様の日々の疲れを癒す憩いの場として

ゆららの湯奈良店は昨年で開店20周年を迎え、老若男女様々な方にご利用して頂いている。県全体が新型コロナウイルスの感染拡大で厳しい時期もあったが、なんとか乗り越える事が出来たのは変わらずご来店して頂けるお客様、そして何よりゆららの湯を支えて下さる従業員に因るところがとても大きい。

押熊店では新型コロナウイルス感染拡大対策とし館内の空気を清浄に保つ為、全館空調設備の新調に踏み切った。換気機能が向上され約5分で館内の空気は入れ換わる。奈良店・押熊店、両店で様々なコロナ対策を実施し続けているのはお客様の安心・安全を守り、日常を守る為。ゆららの湯に「日常の中の、非日常」を求めておられるお客様は少なくない。

時代に併せて人も日常も変化していく。その流れに取り残されることなく、また大切に受け継ぐべき事はしっかりと受け継いでいく。いつもの場所だが、特別な場所。そんな癒しと安らぎをより一層感じられる施設を目指すと共に、奈良県で一番の温浴施設であるという誇りを胸に、未永く愛される「ゆららの湯」である為にこれからも従業員一丸となり邁進して行きたい。



奈良中央信用金庫
理事長
高田 知彦

常に地元の皆様と共に、地元の発展に貢献する

当金庫は、昭和23年の創業以来、一貫して掲げた経営理念のもと、1.顧客を大切にし、地域社会の繁栄に貢献しよう 2.健全で調和のとれた経営を行ない、地域で最も信頼される金融機関になろう 3.互いに切磋琢磨し、品位と活気のある職場をつくろうという3つの基本方針に基づいて、日々活動している。

コロナ禍の今こそ、当金庫の理念・パーソンズを強く意識し、地元中小企業への資金繰り支援・本業支援と地域貢献に全精力を傾注している。特に起業・新規事業展開を目指す事業者への支援として、当金庫独自の助成金制度(愛称:グッドサポート)を13年前に設け、これまで130先に對して総額1億390万円の助成を行っている。厳しい環境は続いますが、今後も地元の事業者をあらゆる方法で支援し、地元の方々のお役に立てる事、地元の発展に貢献する事を目指し、またそれを最高のやりがいと感じてくれる職員をしっかりと育成して行きたい。



上武グループ
創始者
上武 勝宣

感謝と初心忘れず、未来を切り拓く

「初心を忘れず 地域とお客様を大切にし 目配り、気配りをして 足元を固め 地に足をつけて 大きく未来にはばたく」が経営方針。兄弟で創業し、オイルショックでは重機の燃料も入手できず経営危機に陥り、資金繰りや得意先への営業に一睡もせず死にものぐるいで奔走した。この困難を乗り越えられたのは、お客様や地域の皆様、社員、家族の支えのお陰と、身を持って信頼関係の有り難さと大切さを実感した。

その後、白浜のアドベンチャーワールドやゴルフ場、生駒トンネル、近鉄不動産の造成、UR、第二阪奈道路、奈良先端科学技術大学院大学、近畿日本鉄道、ネクスコ西日本や阪神高速などの工事に下請けとして携わった。借入金返済後も、愚直に重機土工事だけに専念し、また得意先への素早い対応が強みと考え、関西に重点を置き地盤を固めた。結果的に、当社の姿勢が伝わり取引先からの信用を得た。

来年4月には、設立50周年を迎える。10年を節に考え、経営者が先頭に立ち、全社一丸であらゆる困難に打ち勝つ覚悟を持ち、進んでいくことが大切。私は、「感謝と初心を忘れず、研鑽を重ねることで未来は必ず拓ける」と確信する。



上武建設株式会社
代表取締役社長
上武 建一

約2年前から新型コロナウイルスが世界中に流行し未曾有の被害をもたらした。その影響もあり社会全体でデジタル化が急速に進み、働き方も多様化した。

数年前から建設業界の未来を見据え、常に新しい技術を取り入れてきた。創業者をはじめとする諸先輩方が培ってきた摇るぎない技術を活かし、DX化を図り、新しいことに挑戦していかたい。そのためにも今まで内部で行っていた社員教育に加え、外部に教育を委託し社員一人一人にあった教育内容を考えていく。社員の意識改革、スキルアップを目指しDXを上手く使いこなせる人材を育成することが大切だ。昔の建設のイメージは3K(危険・キツイ・汚い)だったが、DXにより現場の見える化を実現することで作業の安全化、効率化を図ることができ、スマートでクリーンなイメージに変わっていくだろう。

初心と感謝を忘れずお客様を第一に考え、安全性・品質・生産性向上に努め、地域の皆様に貢献できるようこれまで以上に努力し、社員一丸となり建設業界の更なる発展に貢献していかたい。

今、次代に伝え、
繋ぎ、残す
Legacy
メッセージ特集



Message

(※順不同)



奈良県
知事
荒井 正吾

強い信念を持ち県民の命と生活を守る

本県では、「県民の皆さまの命と生活を守ること」を最大の使命として、県庁の総力を結集して、日々全力で作戦を練り、新型コロナウイルスとの戦いを続けてきました。

特に「医療提供体制の確保」が新型コロナウイルス感染症に係る都道府県知事の最大の責務と認識しており、入院病床、宿泊療養室の確保及び通常医療との両立に向けて重点的に取り組んできました。

新型コロナウイルスとの戦いは、長期戦であり、持続力のある対処が必要です。今後も引き続き科学的な根拠に基づく対策に、知恵と工夫を凝らしたいと思っています。

この間、本県は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出を行わず、時短要請や休業要請は行わないという方針を貫いてきましたが、これは、経済にダメージを与えることなく、効果のない、エビデンスのない取り組みは行わないと考えたからです。

感染拡大時には、批判も多く受けましたが、第5波がおさまるころには、本県の対応を評価する声も多く聞かれようになりました。本県が採った方針が正解だったかどうかは、今後の科学的な検証を待ちたいと思いますが、教訓に学び、次の災害や危機に備えることが大事であり、そのためには記録と分析が大切であると考えています。

引き続き、強い信念を持ち、この戦いから学んだことを、今後の奈良県の安全と繁栄に最大限活かすことができるようしたいと思っています。



第一生命保険株式会社
奈良支社 支社長
布崎 嘉樹

安心の先にある幸せへ

第一生命では、人生100年時代を迎えた今、これまで提供してきた「生命保険」の枠を超えて、一人ひとり違う幸せの実現に向けたお手伝いをしていきたいと願っています。

第一生命奈良支社では、地域の方々の声を伺う場を提供する「地域しあわせ懇談会」を開催しています。

また、地域との結びつき強化の一環として、2018年5月奈良県との7分野にわたる連携協力に関する包括協定を締結、県民の皆さまの「健康」と「安心」を支えるための連携協働を更に深化させ、地域の一層の活性化および県民サービスの向上を目指しています。

さらに、プロバスケットボールチーム「パンペニシヤス奈良」への協賛などを通じて、地域のしあわせに貢献できるよう取り組んでいます。

これからも「一生懸命のパートナー」として寄り添い、あなたの笑顔、夢、希望があふれる毎日と未来のために、私たちは生命保険の枠を超えて、一人ひとりのクリエイティブの向上に貢献していきます。

奈良県の皆さまへ安心をお届けします。ぜひ、私たちにご相談ください。



税理士法人森田会計事務所
代表社員
森田 洋平

企業と共に成長し、奈良を元気に

企業財務だけでなく、お客様の困り事の解決、また寄り添う姿勢を大切にしている。コロナ禍、収入が減り、サラリーマンとして企業に依存していくことに不安を抱く人が増えた。また、コロナもそうだが高齢化で後継者がいないために廃業する企業も多い。だからこそ、飲食や物販などの新規開業、個人事業のスマールビジネスを応援し、今から若い経営者との繋がりを持って、成長を一緒にやって伴奏していきたい。我々もお客様と共に成長し、地元を盛り上げていければと思う。

コロナは今できることを考え、新しいことにチャレンジしていく契機となった。当社でも業務の自動化、スマールビジネスへの取り組みなど、色々なアイデアを出し、実際に行動に移すことができた面ではプラスに働いた。

奈良は県外への就職率が高いが、若い人たちに帰ってくるという発想が根づき、地元で商売をする人が増えれば、より地域は活気づくと思う。そのためにも、外に目を向け奈良の良さを知ってほしい。そして、自分の範囲や可能性を決めつけず積極的に成長していくといつも願う。



学校法人西大和学園 相談役
社会福祉法人西大和白鳳会
理事長
松本喜久子

西大和学園の礎築く—命を懸けて日本一の教育を

学園の創設者である田野瀬良太郎と二人三脚で創立した。草創期から事務室、法人本部、食堂、購買部、営繕、業者との折衝、お金のことまで学園の下支え、いわゆる裏方の旗振り役を務めた。満身創痍ではあったが、何を言われても一本筋を通し、学園への思いは誰にも負けないと学校を良くしていくだけを考えた。人を大事にすることをモットーに、来校された全ての方へ丁寧な対応を徹底した。事務職も教育者と位置づけ、電話・接客対応などは他業種からも評判を呼んだ。学校を日本一にするという大義があつたからこそ、妥協は許さず厳しくもあったが、命を懸けでやり抜く姿勢が教職員の成長と目標の共有に繋がり、一枚岩になれたのだと思う。教職員の姿勢含め、今日の学園の姿を誇りに思う。学園では様々な家庭環境の生徒と接した。その中で、勉強だけでなく例えばお金の有難さや家族への感謝などのモラルを幼少期から教育していくことが大切と実感し、保育園を設立した。今年、初めて卒園生が学園に入学し、とても嬉しいと思う。今後も引き継いで、世の中の良し悪しを保育園で教育していきたい。そして、子どもたちの立派な活躍に期待したい。



公益社団法人
奈良県トラック協会会長
塚本 哲夫

トラック輸送の「標準的な運賃」に ご理解・ご協力をお願いいたします

私たち公益社団法人奈良県トラック協会は、トラック輸送の「標準的な運賃」への周知と理解に努めています。

「標準的な運賃」の実現は、運転者の労働条件改善、運転者不足の解消、事業の健全経営から、更には輸送の安全、物流停滞のリスクを回避し、持続的で安定したトラック輸送の確保に繋がります。

その中で、皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、物流は社会インフラの一角であり、たとえコロナ禍であっても輸送は私たちの果たすべき使命。

皆様の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーの一翼として、今、そして次代に、これからも安定的で、持続的なトラック輸送に業界あげて努め、地域・社会の発展に尽くして参ります。